

WEB版『画題辞典(事典)』構築のための総合的研究プロジェクト
『画題辞典(事典)』構築のための画題分類基準について
——漢画系画題類別のための試み——

中本大(立命館大学・代表)

信多純一(大阪大学名誉教授)・木村重圭(甲南女子大学)・林進(大和文華館)

藤田真一(関西大学)・塩崎俊彦(神戸山手大学)

(以上、『画題辞典(事典)』推進班)

北野良枝(東京藝術大学)・堀川貴司(鶴見大学)・住吉朋彦(慶應義塾大学斯道文庫)

小助川元太(国立呉工業高等専門学校)・綿田稔(東京文化財研究所)

(以上、『後素集』校本作成推進班)

概要 日本文化の独自性を解明する契機としての「画題」の概念確定のため、本邦初の画題集成である狩野一溪編『後素集』の校本作成を試みた。更に、その成果を取り込んだWEB版画題辞典(事典)構築に向けた作例検証及び項目決定のため、本邦漢画系画題を中心に中国清代成立の『歴代題画詩類』を参考に、『後素集』の配列も考慮しつつ、画題分類基準を明確化する試案を提起する。

Comprehensive research for establishing “Dictionary of the subject of a painting (working name)” Project
For deciding the standard to fix the items of the cyclopedia
concerning the themes of the pictures

Dai Nakamoto(Department of Literature)

Junichi Shinoda(Osaka University)・Shigeyoshi Kimura(Konan Womens University)

Susumu Hayashi(Yamato Bunkakan Museum)・Shinichi Fujita(Kansai University)

Toshihiko Shiozaki(Kobe Yamate University)

(working group of the cyclopedia concerning the themes of the pictures)

Yoshie Kitano(Tokyo National University of fine arts and music)

Takashi Horikawa(Tsurumi University)・Tomohiko Sumiyoshi(Keio University)

Ganta Kosukegawa(Kure National College of Techunology)

Minoru Watada (National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo)

(working group of 'Koso-Shu')

Abstract Researching the titles of the pictures has the same meaning as the research of the originality of the Japanese culture. Then, we have paid attention to 'Koso-Shu'(『後素集』) written by Ikkei Kano(狩野一溪) that is the first book classified into the cyclopedia concerning the themes of pictures in Japan. In our research project, to succeed the achievement, and to advance the research of the themes of pictures, we try to clarify how to group the titles of pictures.

【2004年度の進捗状況及び2005年度活動計画】

プロジェクト発足以来、日本文化の独自性を解明する契機として「画題」の概念確定のため、二

つの課題を両輪として研究を進めてきた。すなわち、本邦初の漢画系画題集成である狩野一溪編『後素集』の校本作成及びWEB版画題辞典(事典

)の構築に向けた資料収集である。

第一の『後素集』校本作成については、現存全本文を用いた校合を継続中である。特に本年度はニューヨーク・メトロポリタン美術館図書室所蔵本文を本文校合の底本としつつ、これまでの諸本関係の再確認と現存最上本文の査定を行うことを主眼とした。一方、本文確定と併行して進めている所収画題の作例収集の過程から、興味深い知見を獲得することができた。すなわち、唐土の文献などにもその記載が確認できる、中国・日本の双方に見られる同一の画題が実は全く異なる世界を表現するものであったこと、その齟齬の原因は単なる誤読や誤解ではなく、画題個々に複雑な背景のあることが判ってきたのである。これについては中本及び東京芸術大学の北野良枝を中心とした本プロジェクトでの最大の成果で、来年度早々の公刊を期したいと考えている。

一方、画題辞典構築のための資料収集は、各機関および個人が所蔵する近世期絵手本類の調査および撮影を続行中、来年度初頭に図像を一覧、辞典(事典)の項目、すなわち掲載予定画題を確定したいと考えている。この作業については『後素集』との関連もあり、『歴代題画詩類』を参照し得る漢画系画題については比較的容易であると思われるものの(後掲資料参照)、広義に「風俗画」と総称される近世大和絵系絵画の画題分類基準の構築はかなり難しく、そのためにも作業と併行して行っている研究発表会での研究者相互の問題提起や意見交換が重要であった。この課題については林進・木村重圭が中心となって2005年度中の項目確定にむけて集中して取り組む所存である。

【『画題辞典(事典)』構築のための画題分類基準について—漢画系画題類別のための試み—】

①漢画系画題分類の雛型

I、『歴代題画詩類』(康熙帝御定・康熙46(1707)年・四庫全書集部)

II、凡例に示された分類意識→別紙

A.「山水・人物」を主軸とする類別

B. 山水・人物を明確に分類するのは不可能。したがって、

- a. 第一義には画家・賛者の命名(詩題より確認)を尊重する。
- b. 次いで詩の内容を勘案する。
- c. 山水のうち、具体的な地名の挙がっていないものを「山水」、具体的な地名の挙がっているものを「名勝」、伝奇によって著名となったもの(「武陵桃源」・「赤壁」・「蘭亭」・「黄鶴楼」等)を「古蹟」と三類に分類。
- d. 山水と人物を分類する規範としての「古蹟」と「故実」。
- e. 「人物」のうち、その肖像が世間に流布しているものを「古像」、同時代人が写したものを「写真」と分類。
- f. 「仙仏」・「神鬼」・「仕女」は検索の便を鑑み、敢えて類別。
- g. 「閑適」の定義は「山林高隠翫物適情」。
- h. 「樹石」は風景としての「山水」とは異なり、一木一石の珍奇なものを類別。
- i. 花鳥草木は元来同一筆法ではあるものの、詩題によって立項、分類。
- j. 伝奇を伴わない建造物や人事・年中行事その他を「宮室」・「器用」・「人事」・「雑題」として立項。

III、『歴代題画詩類』全120巻の構成

天文・地理・山水・名勝・古蹟→山水
故実・閑適・古像・写真・行旅・羽獵・
仕女・仙仏・神鬼・漁樵・耕織・牧養→人物
樹石・蘭竹・花卉・禾麥蔬果・禽・獸・鱗介・
花鳥合景・草蟲→花鳥草木魚獸・
宮室・器用・人事・雑題→「古蹟」・「故実」
類以外の建築物・人事・その他

IV、『後素集』(1623)の画題分類

○聖賢・帝王・君侯・儒者・忠孝・仕臣

(以上巻1)

○隱逸・騷客・武士・樂遊・兒童・漁樵・田夫

蚕婦・羈旅・神仙・神僧

(以上巻2)

○羅漢祖師・画工・烈女・美人・男色・器用・天文・地理図・名山川・鳥獸・蟲魚・草木・宮殿・雑

(以上巻3)

- a. 人物(「故実」)の詳細な分類→儒・道・仏の中、「儒」とその周辺の細かな分類意識。
- b. 『歴代題画詩類』との比較では、実作例を参照していない可能性を考慮する必要性。

V、漢画系画題分類の提案

- a. 大項目「山水」・「人物」でそれぞれの筆法や画史を概説。
- b. 中項目「天文・地理・名勝・古蹟・動植・宮室・器用」

(以上、大項目「山水」)

「故実・仕女・神仙・羅漢祖師」

(以上、大項目「人物」)

に分類し記述。「人物」については特に肥大化するであろう「故実」類を詳述する。

- c. 選定した小項目を執筆

※中国では比較的厳密に区分されている「古蹟」と「故実」が本邦では一体化していることの問題点 →物語の場面を切り取る日本(参照・中本論文「桃源図の黄道真一本邦における画題受容の一側面」・「語文」第80・81輯等)